



長野市生涯学習推進計画 (案)



生涯学習のマスコット
「マナビィ」

長野市教育委員会



マナビィとは

文部科学省の依頼により、故・石ノ森章太郎(漫画家)さんが無償でデザインした生涯学習のマスクットマークです。生涯学習の「学ぶ」とみつばちの「Bee」を合わせ、「マナビィ」と名づけられました。蜜蜂の触覚は2本ですが、「学」という字の頭に角が3本あるように、学ぶことの好きな「マナビィ」には触角が3本あります。そして、老若男女がいつでもどこでも楽しく学び活動するといった生涯学習のイメージを浸透させることに大きな役割を果たしています。

マナビィが持っている「壺」に入っているものは、一見ハチミツにも見えますが、じつは、「マナ」(コエンドロ(コリアンダー))という植物の実で、イスラエルの民がエジプトを脱出し、荒野を旅していたときに天から授かり、以後40年間、この「マナ」だけを食べて生き延びたと言われている食べ物だそうです。石ノ森章太郎さんは、「学び」は人々が生きていく上で欠かせないものであるというメッセージを、我々に託されたのでしょう。

目 次

第1編 序論 策定にあたって

1 計画策定の趣旨	1
2 計画の目標年次	2
3 計画策定の基本指針について	2
4 計画の位置づけ	2
5 計画の推進と評価	2

第2編 計画の推進

1 長野市の生涯学習の目指すべきもの	3
2 施策の展開	3
3 施策の体系	4

第3編 生涯学習推進計画

施策1 市民が自ら学べる環境づくり～今を充実させ、未来をひらく～

体系1 ライフステージに合わせた学び

1 乳幼児期に応じた学び	5
2 青少年期に応じた学び	7
3 成人期に応じた学び	9
4 高齢期に応じた学び	10

体系2 現代社会に対応した学び

1 高度情報化に対応する学習機会の充実	11
2 キャリア・アップ、リカレント教育等の推進	12
3 産業振興のための学習機会の充実	13

主な取組の目標値	14
----------	----

施策2 市民と行政で協力しあう地域づくり～生涯学習の成果を生かす～

体系3 文化芸術の振興、文化財・伝統行事の保護と伝承

1 文化芸術活動への支援と文化の創造	15
2 歴史・文化遺産の継承と活用	15
3 「文化力」を活用したまちづくり	15

体系4 スポーツの振興と健康づくりの推進

1 生涯スポーツの振興	17
2 健康づくり講座の充実	18

体系5	地域の魅力と住み良いまちづくり	
1	地域の魅力と住み良いまちづくりの推進	19
体系6	男女共同参画の推進、人権意識の高揚	
1	男女共同参画の推進	20
2	人権同和教育の推進	21
体系7	国際化・多文化共生の推進	
1	国際交流の推進	22
2	多文化共生の推進	24
体系8	環境・防災意識の高揚、消費生活の安全確保	
1	環境学習の推進	25
2	防災学習・交通安全学習の推進	27
3	生活講座の充実	28
体系9	ボランティア活動の推進	
1	ボランティアの育成	29
2	ボランティア情報の収集と提供	30
3	ボランティア活動の活性化	31
	主な取組の目標値	32

施策3 市民と行政で支えあう生涯学習～組織を生かし仕組みをつくる～

体系10	県都としての特色を生かした生涯学習推進体制	
1	県都としての特色を生かした生涯学習推進体制の整備	33
体系11	生涯学習支援の充実	
1	学習情報の収集と提供	34
2	学習機会の提供	35
3	学習相談体制の整備	36
4	グループ・サークル、社会教育関係団体の育成	37
5	学習成果の発表の場の充実	38
6	学習指導者の養成	39
体系12	生涯学習施設の充実	
1	生涯学習センターの充実	40
2	市立公民館の充実	41
3	図書館の充実	42
4	博物館その他生涯学習施設の充実	43

体系13	地域活動への支援	
1	地域活動への支援	44
体系14	家庭・地域・学校の連携と交流の推進	
1	家庭・地域・学校の連携と交流の推進	45
	主な取組の目標値	47

資料

	平成22年度まちづくりアンケート報告書（抜粋）	48
	長野市生涯学習推進計画目標値及び設定根拠等	62
	長野市生涯学習推進計画策定委員会名簿	64

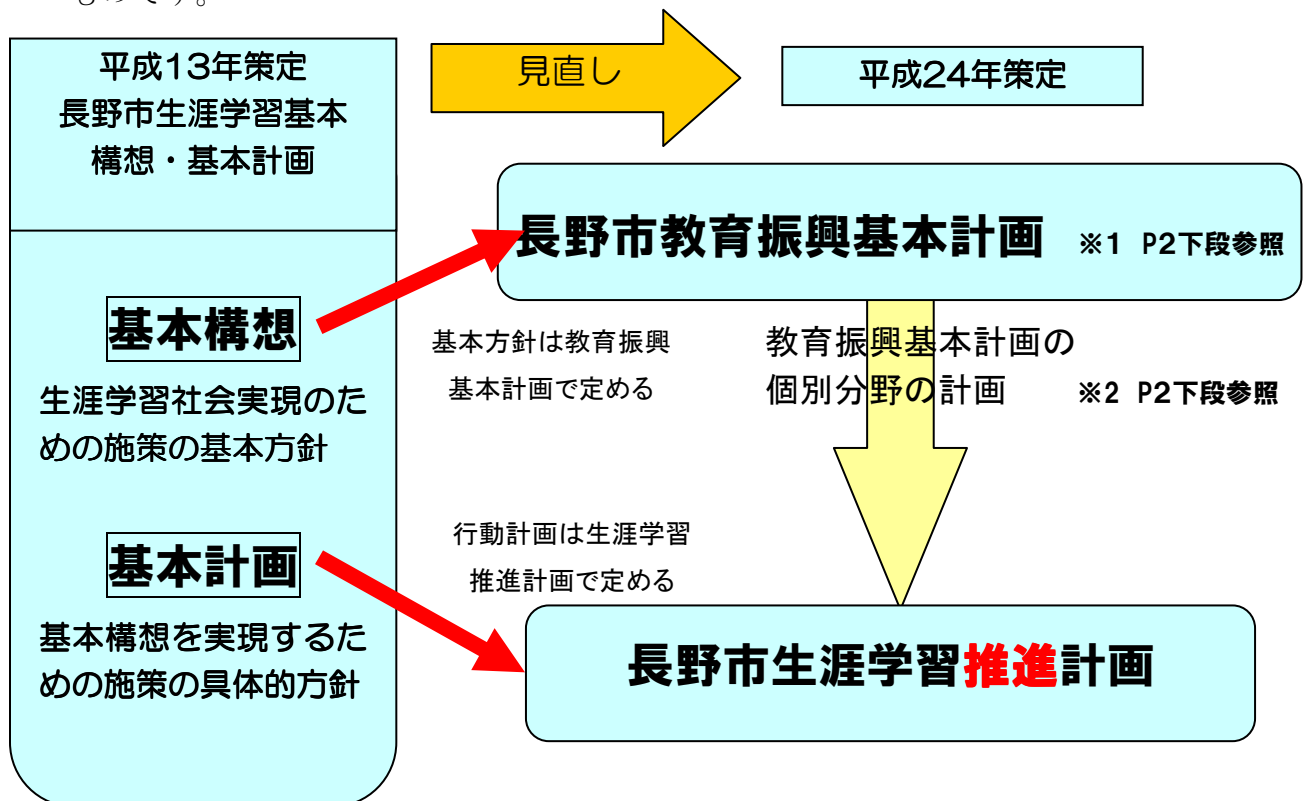
第1編 序論 策定に当たって

1 計画策定の趣旨

長野市は、誰もが生涯にわたり自発的に学習することができ、その成果が適切に評価される生涯学習社会の実現を目指す「長野市生涯学習基本構想・基本計画」を平成13年4月に策定し、時代の変化とともに、多様化する市民の学習ニーズに応じた学習機会の提供や学習環境の整備などの施策を展開してきました。

この基本構想・基本計画の策定から10年が経過する中で、少子・高齢化や高度情報化、国際化などの進展、地方自治法の改正による公の施設への指定管理者制度の導入、平成18年の長野市生涯学習センターの開館のほか、2度の市町村合併による市域の拡張に伴い市立公民館数が本館23館・分館28館から本館29館・分館31館に増加、また博物館分館・附属施設の増加など、長野市の生涯学習を取り巻く環境も多様化し大きく変化してきました。

そこで、このような社会や市民ニーズの変化を踏まえ、新たな時代における生涯学習振興施策を展開するため、「長野市生涯学習推進計画」を策定するものです。



2 計画の目標年次

本計画は、平成 24 年度（西暦 2012 年）を始期とし、第四次長野市総合計画後期基本計画の目標年次である平成 28 年度（西暦 2016 年）を目標とするものです。

3 計画策定の基本指針について

長野市生涯学習推進計画策定委員会及び庁内検討会議を設置し、施策の現状把握及び課題の把握・分析を行ったうえで長野市教育大綱の理念を尊重して策定しました。

4 計画の位置づけ

「長野市生涯学習推進計画」は、「長野市教育振興基本計画」の個別分野の計画とし、同計画及び本市の最上位計画である「第四次長野市総合計画後期基本計画」との整合性を図ります。

5 計画の推進と評価

本計画の推進に当たっては、多様化する市民ニーズや社会・経済環境の変化に対応し、実効性のあるものとするため、目標となる指標の達成状況について、庁内調査を実施し進捗状況の点検・評価を行います。

この評価をもとに、必要に応じ事業内容および手法などの改善を図り、計画的・効果的に施策や事業の推進をします。

- ※ 1 長野市教育振興基本計画とは、今後の教育の方向性と施策の展開を示すものとして、「長野市教育大綱」の目指す姿を施策体系化し、「第四次長野市総合計画」の教育分野の計画と位置付け、24 年 4 月に策定するものです。
- ※ 2 教育振興基本計画の個別分野の計画等
 - 学校教育関係 (重点的取組事項等)
 - 生涯学習関係 (生涯学習推進計画、子ども読書活動推進計画)
 - 文化芸術・スポーツ関係 (文化芸術振興計画、スポーツ推進計画)

第2編 計画の推進

1 長野市の生涯学習の目指すべきもの

生涯学習は、自らの意思に基づき、自己に適した手段・方法を選んで行われる活動です。それは学校や社会の中での学習にとどまらず、スポーツや文化活動の中でも行われるものであり、自己の充実はもちろん、その成果は社会に生かされ、まちづくりを推進していく力となります。

平成13年に策定した「長野市生涯学習基本構想・基本計画」の推進により、市民の生涯学習の機会が広がりました。

今回策定する「長野市生涯学習推進計画」では、市民一人ひとりが、現代社会を生き抜くための学習、地域の良さを理解して人と人との絆を結ぶ学習など、生涯のあらゆる場面での学習を深めることで豊かな生活につながるよう、学習の場の提供を図り、併せて、生涯学習施設の連携・協力を進め利便性の向上を図ります。

本市では、生涯学習講座などを通じ、市民が、互いに高めあうとともに、誰もが、生涯にわたり、いつでも、どこでも自由に学ぶことができるよう生涯学習施設の充実を図り、学習活動を通じた人のつながりや学びの成果を、社会や地域で生かし、活力ある地域づくりにつなげることができるまちを目指します。

2 施策の展開

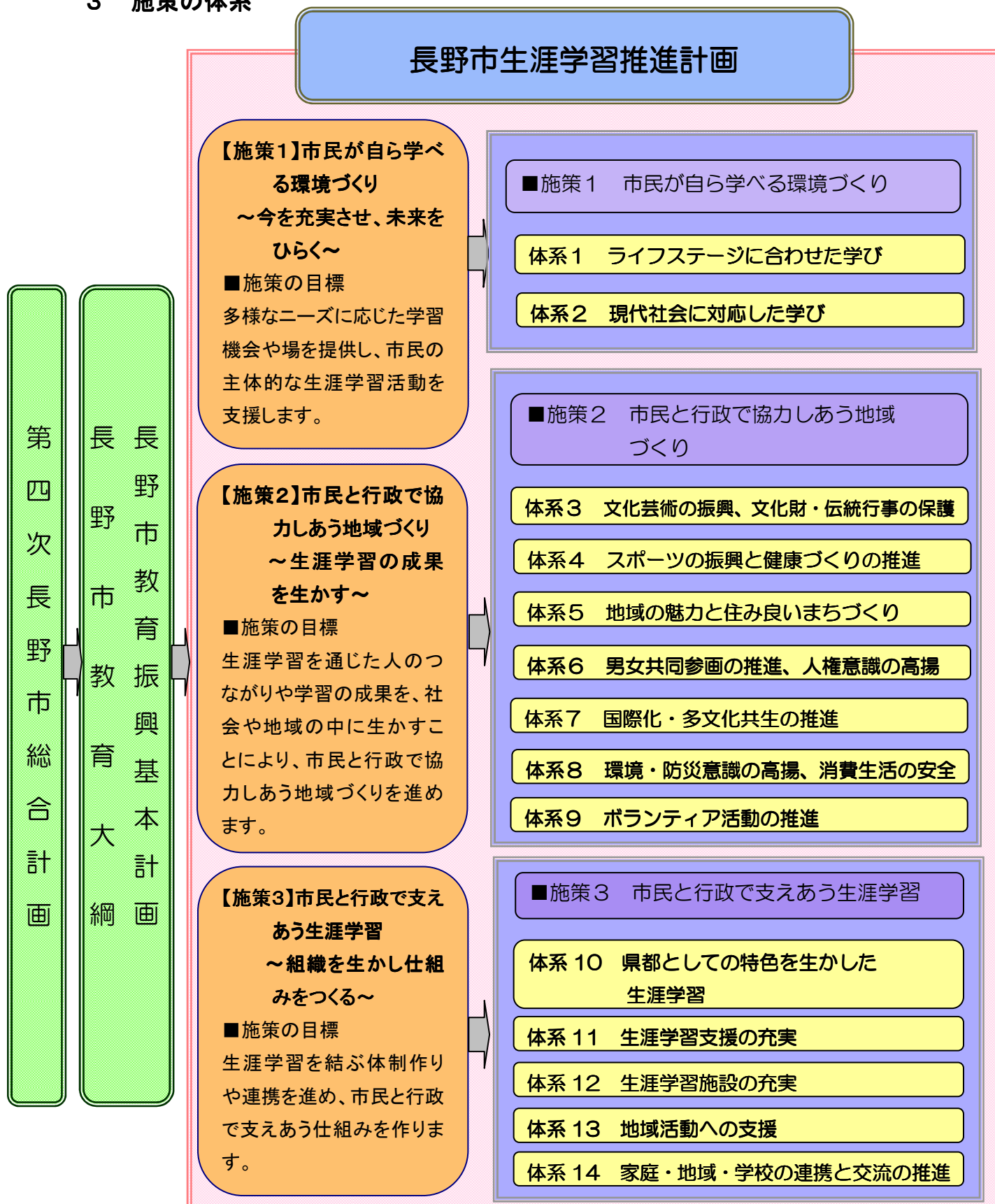
第四次長野市総合計画後期基本計画

政 策： 心豊かな人と多彩な文化が輝くまち

基本施策： 活力ある地域を創る生涯学習の推進

方 針： だれもが生涯にわたりいつでもどこでも自由に学び、互いに高めあうとともに、学びの成果が活力ある地域づくりにつながる生涯学習のまちを目指します。

3 施策の体系



第3編 生涯学習推進計画

施策1 市民が自ら学べる環境づくり
～今を充実させ、未来をひらく～

体系1 ライフステージに合わせた学び

1 乳幼児期に応じた学び

現況と課題

生涯にわたる人間形成の上で大きな意味を持つのが乳幼児期の生活環境です。

乳幼児の学習の場としては、保育所、幼稚園等があります。集団遊び等の中で経験する人と人との関わりは、将来の人間形成にとって極めて価値があるとともに、遊びを通じた身体活動は、運動能力や五感の育成にも重要です。しかし、就園前の子どもを含め、学習の大部分は、家庭にゆだねられています。ところが、今日、核家族化・少子化、親の意識の変化などによって、しつけや基本的な生活習慣等に関する家庭の教育力の低下が指摘されています。

このため、親が子育ての知識や技術を身に付ける機会が求められており、その機会を提供していくことが必要になっています。現在、保健所や保健センター等では各種相談や「マタニティセミナー」、「健康教室」、「親子良い歯サポート教室」等が、公民館では「子育て講座」、「親学講座」等が行われており、市内の保育所・幼稚園では、おひさま広場*1として園開放や育児相談、講演会等が行われる等、より身近な場所での子育て支援が行われています。また、地域子育て支援センターやこども広場においても、子育て相談や各種イベントを開催し、公民館でも育児サークルに施設の開放をしており、交流と情報交換の場となっています。さらに、平成21年度から長野市版ブックスタート*2「おひざで絵本」事業を開始し、幼いころから絵本と親しむ環境づくりをしています。

ライフスタイルが多様化する現代において、多くの親がこれらの講座に参加することができるように、講座の回数の増加、開催日、開催時間の工夫などが必要です。また、親子で参加できる講座や託児の実施など、内容にも配慮する必要があります。

*1 おひさま広場：保育所や幼稚園で、育児相談や園開放、在園児との交流や講演会等を実施している。

*2 ブックスタート：地域に住むすべての赤ちゃんと保護者に、絵本と触れ合うことの大切さや楽しさを伝えながら絵本を手渡す運動。

具体的な取組

- ・ 「マタニティセミナー」、「健康教室」、「子育て講座」「親子良い歯サポート教室」などの子育てに関する学習機会を拡充します。【保健所健康課、生涯学習課】
- ・ 地域主催の家庭教育講座の開催を促すことや、しおりによる啓発をすることにより、保護者の子育てに対する意識を高め、思いやりの心、かけがえのない命の重さを感じる心を育てる家庭教育力の向上を図ります。【生涯学習課】
- ・ 昼間働く親が、学習活動への参加ができるように、開催日、開催時間に配慮します。【生涯学習課】
- ・ 父親の積極的な育児参画を推進するため、仕事と生活の調和 ワーク・ライフ・バランスに関する講演会等を開催し、男性も子育てに参加しやすい体制づくりを進めます。【男女共同参画推進課、保育家庭支援課、産業政策課】
- ・ おひさま広場がすべての保育所・幼稚園で実施できるよう努めるとともに、地域子育て支援センター*3の増設についても検討します。【保育家庭支援課】
- ・ 保育所や幼稚園での集団生活・遊びを通して、未来を担う子ども達の生涯にわたる人格形成の基礎を培います。【保育家庭支援課】
- ・ おひざで絵本事業の一層の推進を図り、乳幼児期から絵本と触れ合うことの大切さや楽しさを伝えます。【生涯学習課】
- ・ 市立公民館では、地域の人材を活用し、子育て経験者が子育て中の親に対してアドバイスや支援を行うなど、地域ぐるみの取組みを支援します。【生涯学習課】

*3 地域子育て支援センター：子育てを支援するために保育所内に併設されているもので、育児相談や子育て講座、園開放などを実施している。



おひざで絵本事業（絵本の読み聞かせ）

2 青少年期に応じた学び

現況と課題

学校教育においては、学習指導要領の基本理念である「生きる力」を育むために、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた育成が重要です。そのために学校教育では自ら学ぶ意欲や社会の変化に対応できる能力の育成、心豊かにたくましく生きる人間の育成、個性を生かす教育の充実など、生涯にわたって学ぶ意欲や能力を育てる、いわば生涯学習の基礎を培います。

しかし近年、特別な教育的支援を必要とする児童・生徒の増加に伴い、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援が求められています。

学校教育だけでなく、家庭や地域の連携に基づいた教育も重要です。本市では、市民ボランティアの参画を得て、放課後子どもたちに遊びや学習などの各種体験活動を提供する放課後子どもプラン*4について、既存の児童館等校外施設のほか、新たな子どもたちの居場所として小学校施設を活用した子どもプラザを順次開設し拡充を図っています。

また、生きる力や連帯感、思いやりの心などを育て学ぶ様々な体験活動や世代間交流は、子どもたちの健全育成の上で重要です。一方、農業体験は、働くことの大切さや環境を守ること、毎日口にする食べ物や健康について考えるきっかけを与える上で重要な体験活動であり、中山間地を中心に農業体験交流事業や食農体験事業を行っています。

また、市立公民館では、世代間交流事業として「しめ縄づくり」などの講習と体験学習、青少年錬成センターでは野外教育活動の場として「錬成 DASH 村」の農村体験など、様々な体験活動の場を提供しています。

本市は、異年齢集団の中での体験活動を奨励しています。毎年夏には「長野市子どもキャンプ」を開催し、自然の中での集団生活を通じ心身を鍛えるとともに、豊かな人間性を育てています。また、単位子ども会や PTA 等が行う子ども対象の体験活動事業の経費を補助し（子どもわくわく体験事業補助金）、体験活動を行うことの大切さを伝えています。今後も子ども会リーダーの養成や、活動の場や学習情報の提供により、子ども会活動を活発化させる必要があります。

さらに、「長野市子ども読書活動推進計画」に基づき、ボランティアの協力を得て学校や公民館、保健センター等で読書活動を行うなど、子どもの読書環境の充実を図っています。

青年期は悩みや疎外感等を強く感じる時期であると言われますが、一方、将来への可能性が培われ、あらゆる分野に目を向け、その中から自分が進む方向を模索する時期です。

このため、青年の活動の場として、音楽、スポーツ、ボランティア活動や、国際化、科学技術の高度化に対応するような学習機会を提供していく必要があります。

*4 放課後子どもプラン：従来の児童館等と小学校内施設（子どもプラザ）を活用して、放課後等における児童の安全で安心な居場所を提供するとともに、遊び・学習・各種体験活動を通じて児童がルールやマナーを身につけたり、体力・創造力を向上させたりすることを目的とするもの。

具体的な取組

- 学校教育は、生涯学習の基礎を培うという視点から、自発的な学習意欲の習得を目指した基礎学力の養成に加え、指導方法の改善、地域に開かれた学校づくりによる学習環境の充実を図っていきます。【学校教育課】
- 障害のある児童・生徒も、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援を実現する特別支援教育の充実を図ると共に、幼保小中の連携を強化し、一貫した支援体制の充実を図ります。【学校教育課】
- 児童、生徒のいじめ、不登校の問題解決のため、学校・学級運営の健全化を図るとともに、教育相談体制の整備・充実を図ります。【学校教育課】
- 異年齢集団での活動を通じ、自主性、社会性を育てるために、子ども会活動への参加を奨励し、問題に直面したときに自ら解決する力を培い、社会的役割や責任の自覚を促す子ども会活動や子ども会リーダーの養成に努めます。【生涯学習課】
- 放課後子どもプランを推進するため、市のアドバイザー制度*5及び地域ボランティアの参画を得て、各種活動の充実を図ると共に、全ての希望児童を受け入れるため、小学校の余裕教室や放課後使用することがない特別教室などを最大限活用し、一人でも多くの児童の受け入れを目指します。【生涯学習課】
- 様々な年齢や世代と交流ができる体験活動を更に充実します。【生涯学習課】
- 青少年の健全な成長を図るため、学校PTAや市立公民館において、基本的な生活態度の形成やしつけなどについて親が学ぶ家庭教育講座などの学習機会を拡充します。【生涯学習課】
- 職業についての理解を深め、職業能力の開発のための職業教育をはじめ、インターンシップ制度*6や大学等の科目等履修生制度*7を含めた幅広い学習機会の提供と資格取得の場の充実を図ります。【産業政策課、生涯学習課】
- 児童・生徒の読書活動の一層の推進を図ります。【学校教育課、生涯学習課、長野図書館、南部図書館】
- 学習意欲に対応した音楽、スポーツ活動、ボランティア活動、外国語、パソコンなどの学習機会を提供していきます。【産業政策課】

*5 アドバイザー制度：放課後子どもプラン活動の拠点（児童館等・子どもプラザ）における、子どもたちの様々な活動に対し支援する制度。折り紙・読み聞かせなど特技を生かしたのものや、宿題サポートなどがある。

*6 インターンシップ制度：学生が在学中に自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと

*7 科目履修生制度：大学に入学せずに、好きな時に好きな授業を受けることができ、特定の授業科目コースを履修して単位を取得することができる制度



子ども会リーダー研修会

3 成人期に応じた学び

現況と課題

成人は、家庭や地域社会、職場など、あらゆる場面での活躍が期待されます。また、人生の中で長い期間を占めるため、文化・芸術、スポーツ活動などを通じて教養を身につけながら自己を一層成長させることができます。

市内の生涯学習施設では、文化、教養等に関する講座、日常生活や仕事に必要な知識や技術を学ぶ講座やパソコン教室、就職のための資格取得講習会など様々な学習機会を提供しています。その中でも、生涯学習センターにおいては、長野県短期大学との共催で開催する「市民カレッジ」や、楽しみながら身近な疑問の解消を図る「教えて常識塾」、また、受講者自らが魅力あるまちづくりを考えるための「トイゴセミナー」等を開催し、多くの方にご参加いただいています。

いずれも、幅広い年齢層が参加することができるように、講座内容の充実や時間、曜日の設定あるいは託児の実施など、さらに工夫を重ねていく必要があります。

また、社会経済構造の変化に適応し、職業を維持していく上で、常に学び続けることが要求されています。このため、職業技術の習得やキャリア・アップ、リカレント教育等の必要性が高まっています。

具体的な取組

- ・ 一人ひとりの課題や学習要求に応じた学習機会の充実を図ります。【生涯学習課】
- ・ 働いている人が参加しやすい時間帯として土日、夜間の講座開設を進めます。【産業政策課】
- ・ 学習意欲に対応した音楽、スポーツ活動、ボランティア活動、外国語、パソコンなどの学習機会を提供していきます。【産業政策課】
- ・ 子どもを持つ人も参加しやすい環境をつくるため、託児サービスの実施にも努めていきます。そのためには、子育てサポーター*8、長野市ファミリーサポート・センター*9 等について積極的に情報を提供していきます。【男女共同参画推進課、保育家庭支援課、生涯学習課】
- ・ 生涯学習センターでは、教育機関の協力の下、様々な新しい現代的課題を学ぶ市民カレッジを開校し、学習機会の提供を行います。【生涯学習課】
- ・ 地域社会の発展のため、地域活動やボランティア活動への積極的な参加を推進します。【生涯学習課】
- ・ 職業についての理解を深め、職業能力の開発のための職業教育をはじめ、インターンシップ制度や大学等の科目等履修生制度を含めた幅広い学習機会の提供と資格取得の場の充実を図ります。【産業政策課、生涯学習課】

*8 子育てサポーター：地域の親子と触れ合いながら、子育てのお手伝いをする人（原則、ボランティアでの活動となる。）。

*9 ファミリーサポートセンター：急な残業や子どもの病気など変動的・変則的な保育ニーズに対応するため、地域において育児の相互支援を行う会員組織

4 高齢期に応じた学び

現況と課題

本市においては、平成 23 年度約 4 人に 1 人が 65 歳以上となり、本格的な超高齢社会を迎えています。

高齢期には、医療、福祉、就労施策の充実と、生涯学習による仲間づくりや生きがいづくりを通して、高齢者が社会的に孤立することなく社会の重要な一員として、仲間とともに生きがいを持って活躍することが期待されます。

かがやきひろばや公民館、中高年齢労働者福祉センター（サンライフ長野）などでは、高齢者学級や趣味、教養、健康などの各種講座・学級が開催されています。また、継続的な学習の場として、大学等と連携し、地域で活躍するために必要な知識と健康づくり方法を実技も交えて学習する講座「ながのシニアライフアカデミー」（2 年制）を開講しています。

また、高齢者の仲間づくりの場として、老人クラブをはじめとするグループ・サークルへの支援も行っています。

今後も高齢者の多様な学習要求に応えるための各種講座の充実を図る必要があります。

高齢者が長年培ってきた豊かな経験や知識を次世代に伝承し、社会のために生かすことは、高齢者の生きがいにつながるとともに、地域社会の中でも大いに期待されています。そのためには、生涯学習指導者としての活用やボランティア活動などの社会参加の場を提供していく必要があります。

具体的な取組

- ・ 高齢者学級をはじめ、高齢者の多様な学習要求に応えるための様々な学習機会の充実を図ります。【高齢者福祉課、産業政策課、生涯学習課】
- ・ かがやきひろば、シニアアクティブルームなど、高齢者の教養や趣味の活動の場を充実します。【高齢者福祉課】
- ・ 老人クラブをはじめとするグループ・サークルへの指導や助言をし、生きがい活動等を支援します。【高齢者福祉課】
- ・ 高齢者の長年培ってきた豊かな経験や知識を活用する場を提供するため、長野市生涯学習リーダーバンクを充実し、指導者やボランティアの情報の提供に努めます。【生涯学習課】

体系2 現代社会に対応した学び

1 高度情報化に対応する学習機会の充実

現況と課題

家庭へのパソコンの普及度は高く、インターネットの趣味・娯楽としての重要性を認識している人は60.8%に達し、新聞(55.9%)を抜き、テレビ(90.3%)に次いでいます。また、インターネットを携帯端末から利用する人の割合は83.8%となり、インターネットのパーソナル化が進展しています。その一方で、46.0%の世帯がインターネット利用に不安を感じており、市民の間でも不安感が払拭されていないことが伺えます。(平成23年版『情報通信白書』より)

現在、市のフルネットセンターでは、パソコン初級者のスキルアップ講座として様々な講座を実施する他、若い世代へのメディアリテラシー教育の一環として、大学生のCM撮影実習や高校生の番組制作就業体験も行っています。また、公民館や働く女性の家等でも初心者向けのパソコン講座が実施されている他、民間事業者の専門的なパソコン講座も行われています。

一方、情報モラルの欠如、著作権や知的財産権の侵害の問題が指摘されています。

インターネットが今後ますます必要になる中で、特に高齢者や低所得者を中心に存在するデジタル・ディバイド*10の解消に向けて、生涯学習施設での講座などを引き続き開設していくことが必要です。

*10 デジタル・ディバイド：パソコン、インターネットなどの情報技術を使いこなせる者と使いこなせない者の間に生じる格差のこと。情報格差とも言う。

具体的な取組

- ・ デジタル・ディバイド解消のための学習機会の充実と学習環境の整備を進めます。
【情報政策課、障害福祉課、男女共同参画推進課、生涯学習課】
- ・ デジタルミュージアム*11や電子図書館*12等、生涯学習施設(公民館、図書館、博物館等)における更なる情報化を検討します。【生涯学習課、長野図書館、南部図書館、博物館】
- ・ 情報モラル等に関する講座を開設します。【生涯学習課】

*11 デジタルミュージアム：指定文化財、遺跡、文化芸術資産や公文書館に移管された公文書などの歴史的・文化的資産のデジタル情報を保管し、インターネットを通じ、閲覧ができるような仕組みのこと。

*12 電子図書館：インターネットを利用して、図書館の所蔵する本のデータベースにアクセスしたり、電子化された本を参照したりできる図書館のこと。

2 キャリア・アップ、リカレント教育等の推進

現況と課題

経済・社会構造の変化などに対応して、多くの人がキャリア・アップや現代に必要な技能の向上を図るため生涯を通じて学び続けることが必要だと考えるようになっており、生涯学習に対する意欲は高まっています。

急激な社会の変化に対応できる職業人の育成を図るために、本市では働く女性の家等において、医療事務や起業、コミュニケーション等キャリア・アップの講座を積極的に展開しています。今後も引き続き、学習情報の提供や学習機会の拡充、企業による生涯学習関係事業の拡充、推進を図る必要があります。

さらに、個人の学習時間確保のために、学習のための休暇制度、スクーリング*13への参加に対する理解・支援が期待されます。また、教育訓練給付制度*14など社会人のための助成制度も設けられており、これらの制度について周知を図っていくことが必要です。

今後は、多様化する市民の学習要望に対応するため、大学・短期大学、高等専門学校、専修学校・各種学校等での社会人の受け入れや多彩な公開講座の実施、講師の派遣等が期待されます。

*13 スクーリング：通信教育の1つの過程として、受講生を一定期間学校に集めて行う面接授業

*14 教育訓練給付制度：雇用の安定・就職の促進を図るため、厚生労働省が実施する職業訓練支援の制度。この制度を利用して厚生労働省指定の講座を受講すると、受講生本人が支払った教育訓練経費の20%に相当する金額が支給される。

具体的な取組

- ・ 職業技術の習得を含め、個人がキャリア・アップするための学習機会を充実します。
【男女共同参画推進課】
- ・ 大学や短期大学、専修学校・各種学校の公開講座等の情報提供を行い、リカレント教育*15の機会を一層充実します。【生涯学習課】

*15 リカレント教育：社会人が必要に応じて学校へ戻って再教育を受ける、循環・反復型の教育体制。



男女共同参画セミナー

3 産業振興のための学習機会の充実

現況と課題

長野市の農業は、恵まれた自然条件や都市近郊型の利点を生かして発展してきました。農業を担う人づくり・組織づくりを進め、農業者が地域の特性を生かして創意工夫し、意欲的に農業経営に取り組むことができるように育成・支援することが必要です。

本市では、意欲的に農業に取り組んでいる専業農業者で今後とも地域のリーダーとして活躍が期待される人物を認定、奨励金を交付するとともに、新たな農業の担い手を確保・育成するため、就農前の研修を受け、新規に就農する者に助成金を交付するなど、積極的に新規就農者への支援を行っています。

また、市民の身近な憩いの場や余暇の場として市民農園・市民菜園の充実を図り、農業の楽しみを生かして健康づくりや生きがいづくりを図ることが期待されています。

一方、商工業等産業分野においても人材の育成や、企業等との連携による更なる活性化が求められています。

新たに事業を始めたいと考えている人、企画・アイデアを実現したいと思っている人を対象に「実践起業塾」を開催するほか、大学と共同で将来的に地域の食品産業の活性化を担う人材を育成するため、「ながのブランド郷土食」事業を展開しています。

また、善光寺平圏域の様々な産業を紹介する「産業フェア in 善光寺平」では、高校生の見学会や小中学生を対象とした長野工業高等学校生の指導によるものづくり体験など、次世代を担う学生・生徒たちのものづくりへの興味を高める催しの充実を図っています。

さらに、食品は、市民の生活や生命に密接な関係を持っており、加工、流通、調理などの各段階において安全性を確保することが重要です。このため、食品衛生に関する情報提供と意識啓発を図ることが必要となっています。

具体的な取組

- ・ 農業に意欲を持つ新規就農者や意欲的に農業に取り組んでいる就農者への支援を図ります。【農政課】
- ・ 次代を担う優れた農業者を育成するとともに、農業の実質的な担い手として活躍する女性や高齢者の育成・支援のための研修会や経営指導の充実を図ります。【農政課】
- ・ 起業塾の一層の充実を図り、創業などの学習機会を提供します。【商工振興課】
- ・ 食品衛生について、正しい知識の普及を図るための学習機会を提供します。【保健所生活衛生課】



産業フェア in 善光寺平
(ロボット展示体験)

主な取組の目標値

【施策1】市民が自ら学べる環境づくり～今を充実させ、未来をひらく～

指標項目	現状値 (H22)	目標値 (H28)
市立公民館での子育て講座の開催回数	303 回	350 回
地域子育て支援センター及び子ども広場の利用者数	147,299 人	150,000 人
「おひざで絵本」事業での絵本配付率	86.9%	95.0%
市立公民館での家庭教育講座の年間開催回数	317 回	370 回
家庭教育支援事業への年間参加者数	17,661 人	20,000 人
少年科学センター年間入館者数	90,721 人	93,200 人
青少年錬成センター年間利用者数	14,746 人	15,300 人

※ 上記指標項目については、成果（長野市をどんな状態にするのか、市民にどんな影響をもたらすのか等について、施策の到達点を数値で示したもの）を把握できる内容の設定としました。



公民館子育て講座



長野市少年科学センター
(サイエンスショーの様子)

施策2 市民と行政で協力しあう地域づくり ～生涯学習の成果を生かす～

体系3 文化芸術の振興、文化財・伝統行事の保護と伝承

文化芸術には、人生をより豊かにする力、世代を超えた喜びや感動をもたらす力、人々の心のつながりや連帯感を形成する力など、様々な力があり、これらを総合した力が「文化力」です。物の豊かさだけでなく心の豊かさが求められている今こそ、文化力に満ちた地域社会の形成が必要とされます。

この文化力に満ちた魅力的な地域社会を形成していくためには、個性が輝く人の存在や活動がつながり支える仕組みがあること、魅力ある文化都市としての基盤が存在することが重要です。

本市では、貴重な文化遺産や伝統芸能を継承するとともに、新たな文化芸術を創造し、国内外に発信することで、地域への誇りと愛着を育む文化力あふれるまちを目指しています。



長野市民演劇祭



街角に音楽があるまちづくり事業
(OPEN Mic at NS-Free st.)

文化芸術の振興による文化力あふれるまちづくりは、「市民等が誇りと愛着を持つことのできる活力に満ちた地域社会の実現を図ること」、「市民等の自主性及び主体性が十分に尊重されること」、「市民等の文化芸術に対する意識の高揚を図ること」、「市及び市民等がそれぞれの役割を担い、相互の連携及び協働により推進すること」、「市民等が等しく文化芸術に親しみ、参加し、又はこれらの活動を活発に行うことができる環境の整備を図ること」の5項目を基本理念として行うことを条例で定めています。

そのために、以下の3つの施策を推進することとしています。

1 文化芸術活動への支援と文化の創造

2 歴史・文化遺産の継承と活用

3 「文化力」を活用したまちづくり

本項目における方策の展開と具体的な取り組みについては、「長野市文化芸術振興計画」で述べています。



新御殿跡（真田邸）



野外彫刻めぐり

体系4 スポーツの振興と健康づくりの推進

1 生涯スポーツの振興

スポーツの語源には、気晴らしや遊びの意があり、日常生活から離れた「余暇」すべてがスポーツと言えます。また、趣味やレジャー、レクリエーションの性格を持ち合わせており、スポーツは遊び、楽しむものです。

本市では、スポーツを運動や競技、体育に限って捉えるのではなく、体力づくり、健康の保持増進はもとより、青少年の健全育成、観光・文化交流などのスポーツの効果、魅力を大きく捉え、長野市の特徴を生かしながら地域の活性化を図るとともにスポーツ文化の定着を目指しています。

また、多様なスポーツ活動への支援、地域スポーツ推進体制の整備、指導者の養成・活用などにより、だれもがいつまでもスポーツに親しめる生涯スポーツの振興を目指しています。

本項目における方策の展開と具体的な取り組みについては、「長野市スポーツ推進計画」で述べています。



NAGANO飯綱高原健康マラソン大会



昭和の森公園フィットネスセンター

2 健康づくり講座の充実

現況と課題

平成 22 年度の長野市まちづくりアンケートでは、生涯学習をする目的として「老化防止や健康増進・ストレスの解消のため」と回答した方が 46.1%と最も高く、特に年齢層が高くなるほどその傾向が高いことが伺われました。

保健所と保健センターでは、健康増進のための講演会、出前講座、健康相談、歯科相談、栄養指導などを行っています。また、心の健康づくりに関する講演会や結核予防・エイズ予防の講演会も開催しており、市立公民館においても各種健康講座を開催しています。

さらに、食品衛生の正しい知識を身につけるため、食品衛生講習会やきのこ中毒防止展示会も開催しています。

社会体育施設等においても、健康づくりのための教室を開催していますが、今後も、市民が生涯学習や社会参加を通じて、生きがい・健康づくりに取り組むことができるように、また、スポーツ（運動）に親しむことにより、健康でいきいきとした生活を送ることができるよう、身近な場所で気軽に参加できる機会の充実を図る必要があります。

具体的な取組

- 健康に関する各種情報の提供や講演会などの学習機会を拡充し、保育所、幼稚園、学校、企業等との連携のもとに、気軽に参加できるような年齢段階に応じた健康教育、予防教育を推進します。【保健所健康課、生涯学習課、体育課】
- 生活習慣病、結核、エイズ、心の健康づくりなどに関する学習機会を、医療機関等との連携のもとに提供していきます。【保健所健康課】
- 薬の正しい使い方、薬物の乱用防止、献血意識の高揚を図るための学習機会を提供します。【保健所生活衛生課】



市立公民館太極拳講座

体系5 地域の魅力と住み良いまちづくり

1 地域の魅力と住み良いまちづくりの推進

現況と課題

本市は、平成17年1月に豊野町、戸隠村、鬼無里村、大岡村と、また平成22年1月には信州新町、中条村と合併し、市域が拡張しました。

その結果、上信越高原国立公園をはじめとする美しい山並みに四方を囲まれ、日本アルプスの清流を集める犀川と詩情豊かな千曲川など、四季折々の大自然の恩恵を受けています。

また、県都として、中核市として、都市機能が集積するとともに、善光寺、川中島古戦場、城下町松代、戸隠など全国的に知られる観光資源のほか、それぞれの地域には魅力ある資源に満ちています。

市民が「我がまち」に誇りと愛着を持った地域づくりを行うためには、地域の魅力を見直し、そのよさを再認識することが大切です。

市立公民館では、地域のよさを再認識するための地域魅力発見講座を開催するほか、公民館同士が連携し市内の歴史や文化、食文化を学ぶ公民館連携講座も開講しています。

まちなみは、地域の顔ともいえるものであり、市民が誇りと愛着を持って住むことのできる景観の創出が必要です。

本市では、魅力あるまちづくりの推進を図り、優れた景観の形成に寄与した団体などを表彰する「長野市景観賞」を設置しているほか、都市デザインフォーラム、景観賞表彰作品めぐり等を開催しています。

高齢者や障害者の生活を豊かにするためには、スポーツや文化芸術活動を含め、生涯学習の場や機会の充実を推進し、いきいきと生活できる環境が必要です。

そのためには、ユニバーサルデザインやバリアフリーなど、やさしいまちづくりに配慮する必要があります。

具体的な取組

- ・ 市立公民館において、名所・史跡巡りなど、地域の魅力を再認識する講座を引き続き開講します。【生涯学習課】
- ・ 市立公民館同士が連携し、各地区の歴史や文化、食文化を学ぶ公民館連携講座を充実します。【生涯学習課】
- ・ 市民の自主的かつ自発的なまちづくり活動を積極的に支援します。【市民活動支援課】
- ・ 景観に関する学習機会の充実を図り、市民の景観に対する関心を高めます。【まちづくり推進課】
- ・ ユニバーサルデザインやバリアフリーなど、やさしいまちづくりについて、市民へ周知します。【障害福祉課】

体系6 男女共同参画の推進、人権意識の高揚

1 男女共同参画の推進

現況と課題

社会制度や慣習の中には、いまだに「男性は仕事、女性は家事・育児」といった性別による固定的な役割分担意識*1が根強く残っています。このような社会制度や慣習、性別役割分担意識を改め、男女がお互いの人権を尊重し、女性も男性も対等な社会の構成員として社会の各分野における活動の機会が確保され、様々な利益を享受し責任も共に担う男女共同参画社会の実現が求められています。

本市では、男女共同参画センターを設置し、男女共同参画意識を醸成するため、講演会や市民の参画型講座、地域や企業・団体等の行う研修会（セミナー）への講師の派遣などを実施しています。

その他にも、男女共同参画の視点に立った学習機会を提供するため、「男性の料理教室」（働く女性の家）や「女性のためのリーダー養成講座」（男女共同参画推進センター）等を開催しています。

これらの講座は市民の意識を啓発するための重要な講座であり、今後も更に、学習機会の提供に努めていくことが必要です。

*1 性別による固定的な役割分担意識：性別によって適した役割や能力、活動する分野があるとして、役割を固定化する考えや意識をいう。

具体的な取組

- 男女共同参画のための意識・啓発を行うため、「仕事と生活の調和 ワーク・ライフ・バランス」*2の実現に向けた講演会を開催するなど、多様な学習機会を提供します。
【男女共同参画推進課】
- 市立公民館や働く女性の家をはじめとする生涯学習施設等では、男女共同参画の視点に立った学習機会の提供や支援に努めます。【男女共同参画推進課、生涯学習課】
- 男女共同参画意識を育てるとともに、人権感覚を磨き、深く豊かな人間性を育む学校教育を推進します。【学校教育課、男女共同参画推進課、人権同和政策課】
- 子育て中の女性に学習機会を提供するため、託児の場を提供するなど学習環境の整備を図ります。【男女共同参画推進課、生涯学習課】

*2 ワーク・ライフ・バランス：仕事、家庭生活、地域社会、個人の自己啓発など様々な活動について、自らが希望するバランスで展開できる状態を言う。

2 人権同和教育の推進

現況と課題

差別のない社会、誰もが安心して生活することができる社会の構築が求められており、行政が責任を持って取り組んでいくことが重要です。差別のない明るい長野市を築くため、市民一人ひとりが、人権感覚を高め、差別の解消に向けて積極的にこの問題に取り組み、合理的な考え方や豊かな人間性を備えた人間として成長することが大切です。

本市では、市民対象の「人権を尊重し合う市民のつどい」や人権同和教育講座など、部落差別をはじめとするあらゆる差別*3を解消するための学習を市立公民館や隣保館などで行っています。また、各地区住民自治協議会では、市が依頼する必須事務として、人権同和教育指導員を配置すると共に、人権同和教育研修会や住民集会が開催されています。

障害のある人とない人が共にふれあうことのできる「ふれあいまつり」を毎年開催するなど、障害者への理解を深める事業を展開しています。

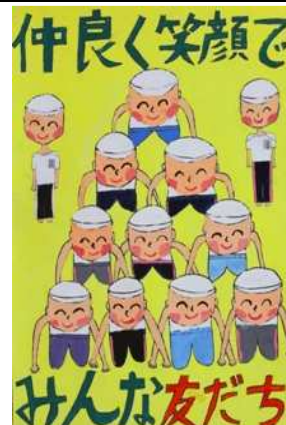
また、講座や教室等の企画・運営に当たっては、通訳の配置など、障害者や外国人への配慮も必要です。

*3 あらゆる差別：このなかには、女性、子ども、高齢者、障害者、アイヌの人々、外国人、HIV感染者等に対する差別などを含む

具体的な取組

- ・ 全市民対象の「人権を尊重し合う市民のつどい」や各地域の公民館等での人権同和教育講座をはじめ、学校教育の場や企業内教育の場など生涯学習のあらゆる機会を通じた人権同和教育・人権同和学习の拡充に努めます。また、各地区住民自治協議会内の人権同和教育啓発担当部署とも連携しながら推進してまいります。【人権同和政策課、生涯学習課】
- ・ ノーマライゼーション理念*4に基づき、障害者への正しい理解を深めるための学習の機会を提供するとともに、障害のある人とない人のふれあいの場の拡充に努めます。【障害福祉課、保健所健康課】
- ・ 障害者や高齢者、外国人などが学習活動に参加することができる学習環境の整備や学習機会の充実に努めます。【秘書課国際室、障害福祉課、長野図書館】

*4 ノーマライゼーション理念：障害者や高齢者など社会的不利を負う人々を特別視するのではなく、一般社会の中で共に暮らし、全ての市民が同等の権利を享受することができる社会が当たり前とする考え方



～平成 23 年度人権同和教育
啓発ポスター入賞作品～

体系7 国際化・多文化共生の推進

1 国際交流の推進

現況と課題

冬季オリンピック・パラリンピックの開催以来本市の国際化は大きく進展し、一校一国運動などは大きな成果を上げました。これらの成果を更に発展させるためには、今後も国際的視野を深める学習機会の充実が必要です。

長野市と米国クリアウォーター市は、昭和34年に姉妹都市提携して以来、交換英語教師・交換留学生の受け入れ、交換学生・英語教師の派遣などの人的な交流を主体に親善交流を深めています。

昭和56年には中国^{せつかそう}石家庄市と友好都市締結をし、視察団の派遣と受け入れ、研修生の受け入れ、中学生派遣事業などを通じて友好親善の絆を深めています。また、将来を担う青少年の友好交流の輪を広げることを目的に、長野市を含む日中両国の友好都市において、小・中・高校生による卓球交歓大会も開催されています。

長年にわたり友好関係を深めてきた姉妹都市クリアウォーター市及び友好都市石家庄市とは、教育、文化、経済等様々な分野における交流の充実・取り組みが必要です。

また、もんぜんぷら座に国際交流コーナーを設置し、国際交流イベントを開催したり、学校・サークル・イベントなどに国際交流員を派遣したりして国際交流の輪を広げています。

「平和と友好の祭典」である冬季オリンピック・パラリンピックを開催した本市から、世界に向けて「平和」のメッセージを発信し続けていくとともに、次の世代の子どもたちに「平和」の大切さを伝えていくことが重要です。

具体的な取組

- ・ 会話能力の向上などを図るため、外国語講座や海外文化についての知識を得る異文化理解講座を開催します。【秘書課国際室、生涯学習課】
- ・ 学校教育において語学力の向上や国際的視野を深める教育を推進し、外国語指導助手派遣の充実を図るなど、国際的視野を身に付けた児童・生徒を育成します。【学校教育課】
- ・ 子どもたちの国際感覚の向上と国際交流の実践のため、「子供たちの国際交流基金」*5を活用するなど「一校一国運動」の新たな展開を図ります。【学校教育課】
- ・ ホームステイなどによる留学生等の受け入れや、通訳ボランティア等の育成を図り、市民による国際交流を促進します。【秘書課国際室】
- ・ 市民の国際交流や国際交流団体の活動拠点としての国際交流コーナーの活動を広く周知します。【秘書課国際室】
- ・ 交換留学生や視察団の受け入れ、派遣等により、姉妹都市・友好都市との交流を進

めます。【秘書課国際室】

- ・ 長野オリンピックの開会式が行われた2月7日を「長野オリンピック記念平和とスポーツの日」と定め、毎年、市民を挙げて世界平和を願い、一層の努力を続け、次の世代へ平和の大切さを伝えます。【庶務課】

*5 子供たちの国際交流基金：市内小中学校での国際交流事業の資金として平成10年度に創設された基金。



国際交流コーナーでの日本語教室



国際交流パーティ

2 多文化共生の推進

現況と課題

多文化共生への理解を深めるためには、市民自ら日本の文化や歴史、自分の住むまちの文化について理解を深めるとともに、異なる文化を尊重する姿勢を育てることが必要です。

市立公民館では、「外国人のための日本語講座」*6、郷土史・歴史講座として日本文化や歴史を学ぶ講座も開催しています。今後も一層このような学習機会の充実に努めていく必要があります。行政制度の理解や市民生活に関わる知識を深めるための講座の開設、外国人の子どもたちのための母国語教室の開催等系統的な取り組みも必要です。

本市では、留学生や研修生を講師に迎え、各国の料理実習をし、食事をとりながら交流する料理教室や、市民を対象とした在住外国籍市民による多文化交流理解講座を開催しています。こうした交流を通して異文化への理解を深めていくことが期待されます。

*6 外国人のための日本語講座：外国人が日本語の日常会話や日本文化、日本や自分の住むまちの歴史について学ぶ講座

具体的な取組

- ・ 市民が日本の文化や歴史について学ぶ機会を拡充します。【生涯学習課】
- ・ 公民館等の生涯学習施設を利用した外国人のための講座等を充実します。【生涯学習課】
- ・ 外国人の料理教室の開催等により、異なる文化への理解を深めます。【秘書課国際室、生涯学習課】
- ・ 小学校に外国語指導助手を派遣し、児童が外国の生活や文化などに触れ親しむことで自国を見つめ直すとともに、国際感覚の醸成を図る機会を提供します。【学校教育課】



異文化理解講座

体系 8 環境・防災意識の高揚、消費生活の安全確保

1 環境学習の推進

現況と課題

平成 23 年 3 月の東日本大震災及び長野県栄村を中心とする地震以降、これまで以上に、市民の間で節電や環境に対する意識が高まっています。市民一人ひとりが環境問題についてさらに理解を深めるとともに、家庭、学校、職場、地域社会などそれぞれの立場で、環境保全活動に身近なところから取り組むことが必要です。

本市では、体験や調査を通じて環境問題を理解してもらう子ども向け各種環境学習会を開催し、多くの親子が参加しています。また、小中学生が参加する「長野市環境こどもサミット」の開催や、「こどもエコクラブ」*7の支援、「みどりの少年団」*8の育成など環境学習機会の充実に努めています。この他にも、広く市民全般を対象として、市内で見ることのできる貴重な動植物を通して自然や環境保全の大切さを学ぶ講座を開講するなど、生涯を通じた環境学習の促進を図っています。

また、循環型社会の実現を目指し、ごみの減量と再資源化意識の高揚を図るため、啓発活動と情報提供を行うとともに、傘や新聞紙を再利用しエコバッグ等を作る講座や、家庭で段ボール箱を使って生ごみを堆肥化する実践講座など、リサイクル体験型の講座を開催しています。さらに、市民の間には不用品等の有効な活用方法として、フリーマーケットなどの利用が人気を呼んでおり、再利用、再生といった環境保全の意識が醸成されてきています。

ごみのない清潔なまちは、市民の願いですが、ごみのポイ捨てやルールに反したごみ出し、不法投棄などが後を絶たず、大きな問題になっています。市民一人ひとりが環境美化意識を高め、自ら問題に取り組む必要があります。

このため、年に 2 回「ゴミゼロ運動」を実施したり、大掃除月間を設定するなど、全市で清掃活動に取り組んでいます。さらに、平成 23 年 4 月から「長野市ポイ捨て等を防止し、ごみのないきれいなまちをつくる条例」を施行し、ポイ捨て・ごみの散乱防止のためのさまざまな啓発活動を行っていますが、今後もマナー向上のための意識啓発を充実する必要があります。

*7 こどもエコクラブ：幼児（3歳）から高校生まで誰でも参加できる環境活動のクラブ

*8 みどりの少年団：自然を愛し、自然に親しみ、自然と触れ合う活動を通して、緑を愛する人間性と心豊かな社会人に育てることを目的として結成された子どもたちの活動団体

具体的な取組

- ・ 環境問題への理解を深め、環境にやさしい生活様式や社会づくりを進めるため、河川・森林などの自然環境に親しむ事業や、環境の保全に関する学習機会を充実し、市民の環境意識の高揚を図ります。【環境政策課、上下水道局総務課、業務課、生涯学習課】
- ・ こどもエコクラブやみどりの少年団の活動、学校教育における環境学習支援など、未来を担う子どもたちの環境学習を支援します。【環境政策課、森林整備課、学校教育課、業務課】
- ・ リフレッシュプラザや市立公民館で開催しているリサイクル体験型講座をはじめ、ごみ減量やリサイクルを推進していくための学習機会を充実します。【清掃センター、生涯学習課】
- ・ 環境美化意識の高揚やマナー向上を図るため、ごみ拾いや清掃活動への参加を奨励し、啓発活動を推進します。【環境政策課】



環境こどもサミット



環境学習会「夏の川遊び」

2 防災学習・交通安全学習の推進

現況と課題

平成23年3月の東日本大震災及び長野県栄村を中心とする地震は、甚大な被害を受けた地域はもとより、日本社会全体に大きな影響を与えるものとなりました。今後は、より一層防災に関する知識の普及と意識の高揚を図り、市民と行政が一体となった災害予防体制を確立していく必要があります。

災害の発生時に的確に対応するためには、市民一人ひとりの防災意識の高揚と災害に対する日頃の準備が大切です。このため、大規模自然災害など各種の災害に対応する知識・技能を修得するための学習機会の提供が必要です。本市では、3年に1度長野市総合防災訓練を、毎年土砂災害に対する防災訓練や水防訓練を実施し、啓発を行っています。

火災の多くは日ごろの注意により防ぐことが可能であり、市民の防火意識高揚を図るとともに、高齢者等の災害弱者に対する防火安全指導、防火診断等の充実が必要になっています。また、地域における防災活動として重要な役割を果たしている自主防災会が行う防災訓練に対して指導等の支援を実施しています。急病や負傷者が発生した時の応急手当についても、普通救命講習会などを通して正しい知識・技術の普及・啓発を図っています。

また、市内では、毎年多くの人々が交通事故による被害に遭っています。交通事故は安全意識を一人ひとりが持つことにより、事故の軽減や防止が可能なものといえます。

本市では交通安全教室や交通安全推進フェアを開催し、市民の交通安全意識の向上と知識の普及に努めています。

具体的な取組

- ・ 防災に関する知識の普及と意識の高揚を図り、市民と行政が一体となった災害予防体制を確立するため、防災に関する市政出前講座*9の活用による防災学習、広報活動や防災訓練等の啓発活動を推進します。【危機管理防災課、消防局警防課】
- ・ 公民館講座の開催により、防災学習を推進します。【生涯学習課】
- ・ 火災を未然に防止するため、予防運動を積極的に推進するとともに、防災市民センターを活用し防災意識の高揚を図ります。【消防局予防課】
- ・ 応急手当に関する講習を拡充し、救急隊が到着するまでに必要な応急手当の重要性とその方法について、正しい知識と技術の普及を図ります。【消防局警防課】
- ・ 幼児から高齢者までの一貫した交通安全教育を、学校、地域、職場等あらゆる場で開催し、交通安全に対する正しい知識の普及と意識の高揚を図ります。【交通政策課】
- ・ 広報活動を充実し、交通マナーの向上を図ります。【交通政策課】

*9 市政出前講座：市職員が講師となり、会場へ出向いて、市の事務や事業について説明を行うもの

3 生活講座の充実

現況と課題

消費生活における商品やサービスの販売形態が複雑化、多様化する中で、巧妙で悪質な訪問販売や通信販売などによるトラブルが発生しています。また、若者等の多重債務や、高齢者を狙った振り込め詐欺、悪質商法等の問題も後を絶たず、こうした事態が続くことにより、市民の将来の消費生活に対して多大な悪影響を及ぼす恐れがあります。このため、賢い消費者となるための学習機会が求められています。

そのほか、食品や製品への安全性に関する意識の高まりや、将来の暮らしに大切な生活設計、健康法などの学習機会を充実していくことが必要です。

また、市民の身近な憩いの場や余暇の場として、市民農園・市民菜園の充実を図るため、本市では「安心・安全なおいしい野菜づくり栽培講習会」を開催するなど、農業の楽しみを生かして、健康づくりや生きがいづくりを図っています。

具体的な取組

- 消費生活に関する正しい知識の普及と意識の高揚により被害の未然防止と拡大防止を図るため、地域や学校などにおける学習機会を充実します。また、安全で安心な生活を営むための知恵や、暮らしの中で必要な生活設計などに関する講座等を充実します。【市民課】
- 市民農園・市民菜園利用者等を中心に野菜づくり講座等を充実します。【農政課】



市民菜園

体系9 ボランティア活動の推進

1 ボランティアの育成

現況と課題

本市では、長野オリンピックの際に根付いたボランティア精神が現在にも受け継がれ、様々なところで多くの市民が活躍しています。

ボランティア活動は、活動に関わる分野の知識や技術の習得のための学習が必要であり、また、活動に参加することによって、更に学習が深まるなど、生涯学習とは密接な関係にあります。

長野市ボランティアセンターでは、毎年、サマーチャレンジボランティアと称して夏休みの期間、ボランティア活動に参加したい人を募っています。

また、ボランティアセンターのボランティアリーダー養成講座などが開設されていますが、これらの講座はまだ数少ないのが実態です。現在、託児ボランティア、音訳・点訳図書ボランティア、読み聞かせボランティア、文化財説明ボランティア、社会教育施設清掃ボランティアなど多くの方が活動されています。市立公民館では、そこで活動するグループが公民館講座のボランティア講師になるなど、学びの成果をボランティアリーダーとして生かす取り組みを進めています。今後はさらに多くの方がボランティア或いはボランティアリーダーとして活躍できるようコーディネートすることが必要です。

具体的な取組

- ・ ボランティアとしての心構えや実際の活動などについて学ぶ機会を提供したり、ボランティアとして活躍する人材やボランティアリーダーを育てたりするための講座・教室等を開催します。【厚生課、男女共同参画推進課、生涯学習課、文化財課、長野図書館、南部図書館】



サマーチャレンジボランティアのご案内

2 ボランティア情報の収集と提供

現況と課題

ボランティア活動をしたと思ったときに、まず必要になるのは情報です。どこで、どのような活動ができるのか、活動拠点はどこか、といった情報が迅速に入手できるような仕組みづくりが必要です。

市内のボランティア団体やボランティア活動の情報は、ボランティアセンターが主に収集し、取りまとめをしています。全県の場合は「ボランティア交流センターながの」で収集しています。しかし、現在の情報はボランティアから自主的に寄せられるものが主になっていることから、関係機関との連携を深め、情報収集の仕組みづくりをするとともに、情報の交換や共有を進めることが重要です。

一方、ボランティア情報は主にボランティアセンターの『ボランティアかわらばん』などの情報誌、また、ホームページなどによって提供されていますが、ボランティアセンターだけでなく、生涯学習センターや市立公民館など他の機関においてもそれらの情報を提供していくことが必要です。

具体的な取組

- ・ 市民や各機関が所有している情報の交換や共有により、より多くのボランティア情報を収集する仕組みづくりを進めます。【厚生課】
- ・ 学習情報の提供の一環として、市立公民館等でもボランティア情報を提供していきます。【生涯学習課】
- ・ インターネットの活用等により、学習情報の提供を充実します。【厚生課、生涯学習課】



「ボランティアかわらばん」

3 ボランティア活動の活性化

現況と課題

現在、市内には福祉分野のボランティア団体をはじめ、リフレッシュプラザを拠点としたリサイクル活動のボランティア、真田宝物館を拠点とした松代文化財ボランティアなど多くの団体があり、活発に活動しています。それぞれの施設では、積極的な支援をしており、活動の活性化にもつながっています。

また、平成23年3月の東日本大震災の際にも、復興支援を目的に「長野市災害ボランティア委員会」が立ち上げられ、被災地へのボランティア派遣や長野市内における被災者支援を行っています。

ボランティア団体を支援するボランティアセンターには、専任の「ボランティアコーディネーター」*10が配置され、ボランティアの相談やコーディネート（調整）業務に当たっています。「ボランティアコーディネーター」の役割は、ますます重要になっていることから、人材を養成し、コーディネート機能を強化することが必要となっています。

少子化や超高齢社会の到来、市民要望の多様化に伴い、ボランティアの役割は年々重要になってきていることから、今後もボランティア活動に対して、様々な面から支援をしていく必要があります。

*10 ボランティアコーディネーター：ボランティアを希望する人と必要とする人の双方の要望を総合的に調整し、介する役割を担う

具体的な取組

- ・ ボランティアの活動しやすい環境を整備するため、ボランティア活動を支援し、ボランティアコーディネーターを育成します。【厚生課】
- ・ ボランティアコーディネート機能の強化を支援します。【厚生課】
- ・ 講座・教室等を修了した人がボランティアとして学習の成果を地域に還元できる機会を提供します。【生涯学習課】



ボランティア・地域活動
コーディネーター力養成講座

主な取組の目標値

【施策2】 市民と行政で協力しあう地域づくり～生涯学習の成果を生かす～

指標項目	現状値 (H22)	目標値 (H28)
週1回以上スポーツ活動を行っている成人の割合	52.8%	69.6%
市民会館等市有の文化・芸術施設利用者数	378,623人	520,000人
環境学習会年間参加者数	2,425人	3,100人
国際交流コーナーの年間利用者数	12,412人	14,200人
人権同和教育に関する各地区住民自治協議会が実施する研修会への年間参加者数	17,767人	21,000人
男性の家事（炊事・掃除・洗濯・買い物など）への参画率	69.5%	80.0%
市立公民館における地域の魅力発見のための年間講座開催回数	134回	200回
市立公民館におけるコミュニティ活動リーダー育成のための年間講座開催回数	27回	29回

※ 上記指標項目については、成果（長野市をどんな状態にするのか、市民にどんな影響をもたらすのか等について、施策の到達点を数値で示したもの）を把握できる内容の設定としました。



市立公民館 ふるさと魅力発見講座

施策3 市民と行政で支えあう生涯学習

～組織を生かし仕組みをつくる～

体系10 県都としての特色を生かした生涯学習推進体制

1 県都としての特色を生かした生涯学習推進体制の整備

現況と課題

学習活動は、乳幼児期から高齢期まで及び、様々な分野にわたっています。そこで、施策の推進に当たっては、総合的・体系的に取り組む必要があります。

本市の生涯学習に関する事業は、生涯学習センター、市立公民館、市立図書館、博物館、美術館などの教育委員会の施設のほか、市の多くの部局において実施されています。

県都である本市には、県立長野図書館、長野県信濃美術館・東山魁夷美術館、ホクト文化ホール（長野県県民文化会館）など県立の施設があり、これらの県立施設と市立施設で連携を深められるという特色があります。

また、市内には大学・短期大学など多くの教育機関があり、本来の教育活動のほか、市民を対象とした講座等を開催しています。信州大学では「市民開放授業」や「出前講座」・「公開講座」、長野工業高等専門学校では「出前授業」、長野県短期大学では「市民カレッジ」、清泉女学院大学・短期大学では、「オープンカレッジ 生涯学習講座」や「公開講座」、長野女子短期大学では「公開講座」、専修学校・各種学校では「いきいき生涯学習」、市立長野高等学校では「パソコン講習会」などが実施され、多くの市民が学んでいます。

さらに、市内には民間の美術館など多くの生涯学習施設があり、カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の生涯学習事業が実施されています。

市民の多様な学習要望に応えるためには、このような特色を生かし、県立の施設や教育機関等と連携し、生涯学習を推進していくことが必要です。

具体的な取組

- ・ 生涯学習の全市的推進のため、生涯学習施設、活動団体、民間事業者等との連携を図ります。【生涯学習課】
- ・ 教育機関、民間事業者等との共催事業の実施など、連携を深めます。【生涯学習課】
- ・ 生涯学習を総合的・体系的に推進するため、生涯学習センターでは、学習相談、学習情報の提供、最新の学習課題を学ぶ全市的な講座を提供してまいります。【生涯学習課】

体系 1 1 生涯学習支援の充実

1 学習情報の収集と提供

現況と課題

生涯学習を進める上で重要となるのが学習情報です。市内の学習情報は、各部局、教育機関や民間事業者から様々な手段により収集できますが、長野市全体の学習情報を一元化するまでには至っていません。

講座などの学習情報は、市の広報、地区内回覧、市のホームページ、生涯学習だより、公民館報、『長野市生涯学習リーダーバンク登録者名簿』、『長野市のグループ・サークル』などにより提供をしています。

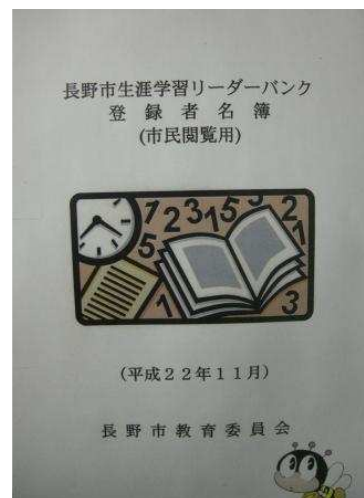
今後は、長野市全体の学習情報を一元化し、定期的に総合的な学習情報として提供していく必要があります。

具体的な取組

- ・ 生涯学習センターにおいて学習情報紙の発行などにより情報を提供します。【生涯学習課】
- ・ 学習情報を広く提供するため、情報の整理を行いホームページでの一元管理を進めていきます。【生涯学習課】
- ・ 公民館報やちらし・印刷物等による情報提供は、その特性を生かして充実を図ります。【生涯学習課】



ながの生涯学習だより



長野市生涯学習リーダーバンク

2 学習機会の提供

現況と課題

学習者の求める学習内容は趣味的なものから専門的なものまで幅広く、また求めるレベルは初歩的なものから高度な最先端技術まで広がっています。

本市では、市立公民館で行われている成人学校や各種講座はもちろんのこと、生涯学習センターでは、長野県短期大学との共催で「市民カレッジ」を開催しています。また「地域人材育成セミナー」も開催し、個性豊かなまちづくりや地域活性化の方法等を学ぶことで、継続的に地域づくりを行う人材の育成を目指しています。

このように、学習のきっかけとなる初歩的なものは市立公民館やかがやきひろば、働く女性の家などで実施し、高度な内容のものについては、大学、高校等の教育機関や他関係機関等と十分な連携をとって行う必要があります。

現在、介護保険やごみの分別など、市民に市の仕事に対する理解を深めてもらうため市政出前講座を実施し、市政情報を提供しています。

放送大学は、誰でも入学でき、テレビ・ラジオ等*1を通じて授業を受けることができる教養学部の大学です。現在、市内では生涯学習センターに放送大学長野ブランチ（センター外視聴施設）が設置されており、教材テープの貸し出しや視聴、単位認定試験などが行われています。

*1 「BS デジタル放送」等を利用し、全国で放送されており、無料放送なので、アンテナ・チューナーなどの受信環境を整えば、無料で視聴できる。

具体的な取組

- ・ 他の生涯学習機関及び教育機関等と連携し、学習者の幅広い要望に対応した学習機会を提供するとともに、高齢者・障害者・外国人などに配慮した学習機会の提供に努めます。また、適正な費用負担についても検討します。【生涯学習課】
- ・ 市職員が出向いて市政に関する説明などを行う、市政出前講座の充実による学習機会の提供に努めます。【広報広聴課】
- ・ 放送大学長野ブランチ（センター外視聴施設）について、市民への情報提供を行うとともに、高度な内容の学習機会を提供するよう努めます。【生涯学習課】



放送大学再視聴施設（生涯学習センター）

3 学習相談体制の整備

現況と課題

生涯学習センターで学習相談に応じているほか、市立公民館、働く女性の家などの施設でも相談を受けています。今後は、関係職員の資質向上を図るとともに、学習情報を一元化して提供するなど、より学習相談体制を整えていく必要があります。

一方、図書館におけるレファレンス・サービス*2についても、国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」事業に参加し、相談事例をデータベースに登録・公開するなど、情報の収集及び提供に努めています。

*2 レファレンス・サービス：調べてみたい情報がどこにあるかわからないときに、図書館司書が可能な限り調べ、図書館にある資料を主体に情報を提供するサービス。

具体的な取組

- ・ 生涯学習センターでは、豊富な情報の収集等により市民の学習相談に的確に応える体制づくりを進めるとともに、より身近な相談窓口である市立公民館などの生涯学習施設においても学習相談体制の強化を図ります。相談窓口は市民が気軽に利用することができるよう PR にも努めます。【生涯学習課】
- ・ 学習相談に応じる職員の相談などの能力を高める研修を実施し、資質向上を図ります。また、相談内容の記録やノウハウの蓄積により、スムーズな対応に努めます。【男女共同参画推進課、生涯学習課、長野図書館、南部図書館、博物館】
- ・ 市立図書館におけるレファレンス・サービスの一層の充実を図ります。【長野図書館、南部図書館】

長野市立図書館
HOME

レファレンス・サービス

知りたいことがあり、調べてみたくれど情報どこにあるかわからないときなど、司書が可能な限り調べ、図書館にある資料を主体に情報を提供するサービスをしています。

レファレンス・サービス
「何らかの情報を求める利用者の質問に対して、回答となる情報をそのものを提供したり、回答の含まれる情報を指示・提供すること」
〔日本図書館協会編「図書館用語集 三訂版」p.323〕

<相談の受付>
お電話又は直接面談でご質問をお受けします。
Eメールでの受付はしておりません。ご了承ください。

<お受けできない相談>
①古文書、美術品、貴重品等の鑑定や市場価値の調査
②学習指導、卒業論文又は修業指導に関する調査
※お受けできないのは直接回答を求めるときで、研究課題等に関する資料紹介は行います。
③身土調査や志望相談
④医療相談や健康相談
高橋入の社会 文庫 新産出→編集者から 市立社会→直地重影部友及部計及れ部無スト取められ部

レファレンス・サービスの案内
(ホームページより)

4 グループ・サークル、社会教育関係団体の育成

現況と課題

長野市には公民館を拠点に活動している団体が 2,286 あり（平成 22 年度末現在）、本市ではこの情報を『長野市のグループ・サークル』という冊子にまとめて情報の提供に努めています。また、勤労青少年ホームなど他の生涯学習施設でも多数のグループ・サークルが活動しています。今後も自主的なグループ・サークルが育ちやすい環境を整備し、活発な活動が展開されるよう支援していくことが大切です。

市立公民館では、成人学校等の学級・講座修了者に対して、より学習を深めるために、グループ・サークルの結成を勧めています。また、公民館報でグループ・サークルの紹介をしたり、公民館を使用しているグループ・サークルの打ち合わせ会を実施するなど、様々な方法で活動を支援しています。今後も引き続きこれらを充実する必要があります。

具体的な取組

- ・ 他のグループ・サークルとの交流の場を設けたり、公民館をはじめ、生涯学習施設で活動している団体の情報収集に努めたりするとともに、広く市民に情報を提供し、グループ・サークル、社会教育関係団体の活性化を図ります。【生涯学習課】
- ・ 団体の組織化や運営方法等について、相談に応じ助言するとともに、活動の場の提供に努めます。【男女共同参画推進課、産業政策課、生涯学習課】



長野市のグループ・サークル

5 学習成果の発表の場の充実

現況と課題

市立公民館では、作品展、文化祭などの発表の機会を設け、学習成果を市民に公開し、学習者のやる気の醸成と新たな学習者の発掘に努めています。

一方、市内では高校、大学をはじめ、小中学校のクラブ活動の発表会が多数開催されているほか、各種グループ・サークルが共同して作品展示発表などを行っています。また、展示会・発表会・演奏会等も盛んに開催されており、長野市や長野市教育委員会もこれらの多くを後援しています。

また、市立公民館のホールや市民会館、松代文化ホール、若里市民文化ホール、東部文化ホールなどの施設の有効活用を図り、発表の場を充実させる必要があります。

具体的な取組

- ・ 児童・生徒の作品展や大会など、また成人学校等における作品展、文化祭など、発表の機会を一層充実します。【学校教育課、生涯学習課】
- ・ ボランティア組織や地域の小中学校、生涯学習施設などと連携し、発表者の受入れを促進します。【生涯学習課】
- ・ 既存施設の有効活用を図るとともに、新たな本市の文化芸術拠点施設となる新市民会館を整備します。【学校教育課、生涯学習課】



市立公民館作品展



東部文化ホール

6 学習指導者の養成

現況と課題

本市には、講座やサークルの指導者として既に活躍している市民のほか、専門的な知識・技能を持っている方がたくさんいます。生涯学習の指導者は、指導が生きがいでもあり、学習指導により更に学習が深まります。また、ある分野の指導者が異なる分野では他の指導者に教わるというように相互に教え、学び合っています。

生涯学習の推進には、様々な学習活動を指導し、助言する人の役割が重要であり、各分野の指導者の発掘や養成の機会を拡充していく必要があります。

本市では平成6年度に「長野市生涯学習リーダーバンク」を設置し、平成23年3月現在284人が生涯学習指導者として登録されています。今後は、登録者の活用を推進するとともに、発掘、養成した指導者を、生涯学習リーダーとして市民に情報提供し、活用を図っていく必要があります。

具体的な取組

- ・ 指導者の発掘と養成を行い、「長野市生涯学習リーダーバンク」を充実します。【生涯学習課】
- ・ 「長野市生涯学習リーダーバンク」の活用により、指導者の情報を積極的に提供するとともに、指導者の活躍の場の確保に努めます。また、掲載内容の充実に努めます。【生涯学習課】

体系12 生涯学習施設の充実

1 生涯学習センターの充実

現況と課題

長野市では、平成18年10月に生涯学習推進の拠点となる生涯学習センターを設置し、生涯学習を総合的・体系的に推進しています。

自主企画講座として、身近な疑問の解消・生活上のちょっとした工夫・常識などを学ぶ「教えて常識塾」、長野県短期大学との共催講座「市民カレッジ」、魅力ある長野市づくりを考える「トイゴセミナー」、継続的に地域づくりを行う人材の育成を目指す「地域人材育成講座」、個性豊かな地域の経済活性化を目指す「トイゴ経済セミナー」、市民の生涯学習意欲の高揚・学ぶきっかけづくりの「文化講演会」を開催しています。

また、市民グループ・サークル・企業の勉強会、研修会、各種セミナー、講演会、作品展示会などへの学習室の貸出を行ったり、放送大学長野ブランチ（センター外視聴施設）としても利用されています。

平成22年度の生涯学習センターの利用者数は、174,886人となっています。

今後は、より一層長野市の教養を高める拠点施設としていくことが必要です。

具体的な取組

- 生涯学習センターで開講している「教えて常識塾」、「市民カレッジ」、「トイゴセミナー」、「地域人材育成講座」、「トイゴ経済セミナー」など自主企画講座の充実に努めます。

【生涯学習課】

- 豊富な情報の収集等により、市民の学習相談に的確に応える体制づくりを進めます。【生涯学習課】

- 学習情報紙の発行などにより情報を提供します。【生涯学習課】

放送大学長野ブランチ（センター外視聴施設）について、市民への情報提供を行うとともに、高度な内容の学習機会を提供するよう努めます。【生涯学習課】



生涯学習センター文化講演会

2 市立公民館の充実

現況と課題

本市の市立公民館は、市町村合併により本館が 29 館、分館が 31 館となっており、それぞれ独立・並列方式*3 で運営されています。公民館は地域の社会教育・生涯学習の拠点施設として重要な役割を担っており、身近な学習施設として多くの市民に利用されています。平成 22 年度の利用者は、1,045,705 人となっています。

市立公民館では成人学校のほか各種学級・講座を開催しています。平成 22 年度において、成人学校は 21 公民館で延べ 7,557 人が受講しています。また、地域課題にそった学級・講座を延べ 1,961 回開催し、延べ 109,727 人が参加しています。

市立公民館の改築は、人が集まりやすい、誰もが使いやすい施設を目指し、耐用年数を考慮し、年次計画に基づいて整備を進めています。

学習者の要望に対応する情報収集・相談機能を充実する必要があります。

*3 独立・並列方式：それぞれの公民館が独自に地域の学習課題を把握して、学習機会の提供をする方式で、中央公民館方式が中核的な公民館がその他の公民館を指導・助言し、とりまとめているのに対比される。

具体的な取組

- ・ 耐用年数や利用状況等をふまえ、年次計画に基づいて、ユニバーサルデザインを取り入れた施設の建設をすすめます。その際には、バリアフリー*4化を進め、高齢者・障害者へも配慮します。【生涯学習課】
- ・ 他の生涯学習施設と連携しつつ、学習者の要望に対応した情報収集・相談機能の充実を図るとともに、引き続き学習機会を提供します。【生涯学習課】
- ・ 市立公民館をより地域に密着したものとするため、指定管理者制度の導入も踏まえながら、運営形態について検討します。また、本館・分館・分室の配置についても併せて検討します。【生涯学習課】

*4 バリアフリー：障害者や高齢者が社会生活を営む上での障害となっているものを取り除くこと。



市立公民館成人学校（書道講座）

3 図書館の充実

現況と課題

本市には、県立図書館のほか、市立図書館本館（長野図書館及び南部図書館）が2館あります。そのほか、市立公民館28か所（篠ノ井公民館を除く）に図書館分室を設置し、移動図書館*5「いづな号」が91箇所できめ細やかなサービスを提供しています。

蔵書は平成22年度末で916,514冊、平成22年度の年間利用者は365,994人、貸出冊数は、1,743,062冊となっています。平成17年4月からは貸出冊数を1人5冊から10冊に増冊、平成19年には利用者向け検索用コンピュータを増設、平成20年4月からはインターネットからの予約サービスを開始するなど、利用者サービスの向上に取り組んでいます。

また、長野図書館にある障害者ライブラリーでは、点字図書・録音図書（カセットテープ・デージー*6）を貸出したり、対面朗読を行ったりしています。

図書館は、個人学習を進める上で重要な施設です。市民の高度で多様な学習を支援するため、一層の図書及び資料の充実を図っていく必要があります。

また、図書館の分館・分室などの配置や移動図書館サービスについて検討し、利用者の利便性の向上を図っていくことが必要です。

*5 移動図書館：専用の車に図書を積んで市内各地区を巡回して貸出を行う自動車図書館。図書館から遠くて利用しにくい市民にも図書を提供できる。

*6 デージー：視覚障害者や一般の印刷物を読むことが困難な人々のためにカセットに代わるデジタル録音図書。

具体的な取組

- ・ 個人学習のための重要な施設として、施設、図書及び資料の充実と更新を図ります。【長野図書館、南部図書館】
- ・ 市立公民館に併設した図書館分室を充実します。【長野図書館、南部図書館】
- ・ 図書館分館2館程度の設置を検討します。【生涯学習課】
- ・ 他の公共図書館とのネットワーク化について検討します。【長野図書館、南部図書館】
- ・ インターネットによる図書館資料の予約をさらに充実します。【長野図書館、南部図書館】
- ・ 市立図書館において、点字・録音図書等の充実を図り、より多くの視覚障害者等に対して読書の機会を提供します。【長野図書館】
- ・ 図書館のおはなし会・おたのしみ会を充実させ、子どもたちの創造的で豊かな心を育みます。【長野図書館、南部図書館】



市立長野図書館

4 博物館その他生涯学習施設の充実

現況と課題

生涯学習センター、市立公民館、市立図書館のほか、博物館、青少年教育施設、社会体育館などの施設も重要な生涯学習の場です。

長野市立博物館は、八幡原史跡公園内にある本館のほか、分館として戸隠地質化石博物館、鬼無里ふるさと資料館、信州新町美術館・有島生馬記念館・信州新町化石博物館・ミュージアム、附属施設として門前商家ちよっ蔵おいらい館、豊野資料収蔵室、大岡歴史民俗資料館、中条歴史民俗資料館があります。平成 22 年度の市立博物館入館者数合計は 79,731 人となっています。

その他大室古墳館や埋蔵文化財センター、真田宝物館・真田邸・文武学校・旧横田家住宅・象山記念館などの松代文化施設があります。平成 22 年度の松代文化施設入館者数合計は 567,434 人となっています。

青少年教育施設では、昭和 60 年 7 月に開館した少年科学センター、昭和 57 年 4 月に開館した青少年錬成センター本館、平成 13 年 5 月に開館した青少年錬成センター分館があり、青少年の健全な育成を図っています。

また、社会体育館は 33 館あり、平成 22 年度の利用者数は 397,747 人となっています。

今後も引き続き、博物館やその他生涯学習施設の整備充実を図る必要があります。

具体的な取組

- ・ 生涯学習施設の整備充実を図るとともに、バリアフリー化など高齢者や障害者に配慮します。【生涯学習課、文化財課、博物館、体育課】
- ・ 博物館の常設展示の整備を図るとともに、収蔵施設の整備を図ります。【博物館】
- ・ 松代文化施設の整備活用を図ります。【文化財課】



信州新町美術館

体系13 地域活動への支援

1 地域活動への支援

現況と課題

本市では、地区全体で対応しなければならない課題に対し、地区の特性を生かした活動を総合的かつ柔軟に行う組織である「住民自治協議会」が全地区で設立されています。

また、市内には地域のコミュニティ施設である地域公民館が多数あり、この地域公民館を拠点として、それぞれの地域で講座・教室、文化祭、運動会など多彩な活動が行われています。

市立公民館は、地区内の人材発掘や育成を目的とした講座を開催したり、住民自治協議会や地域公民館等が行う人材の発掘・育成等に関する活動を積極的に支援していくことが求められています。

具体的な取組

- ・ 市立公民館は、住民自治協議会や地域公民館との連携を更に深め、その活動を支援します。
【生涯学習課】
- ・ 市民の自主的かつ自発的なまちづくり活動を積極的に支援します。【市民活動支援課】
- ・ 地域の連帯感や地域社会への参加意識を高めるための文化祭や運動会をはじめ、地域の清掃や公民館や道路の草刈りなど、地域の様々な事業を支援します。【維持課、生涯学習課】
- ・ 地域公民館の施設整備への支援をします。【生涯学習課】



住民活動フォーラム

体系 1 4 家庭・地域・学校の連携と交流の推進

1 家庭・地域・学校の連携と交流の推進

現況と課題

親と子だけの核家族や一人親世帯など、家族の形態が変化し、また、価値観や、ライフスタイルの多様化などから、家庭における教育力が低下していると言われています。

しかし、教育における一番基礎となる部分は家庭であり、家庭教育が大きな役割を期待されています。家庭において求められている教育とは何かを明らかにするとともに、本来、家庭において学ぶべき、しつけや社会常識などが学校に求められている現状は、改善していく必要があります。さらに、家族の絆を深め、そこから他者への思いやりの心を育んでいくことも求められています。

また、家庭教育とともに、地域の教育力も低下していると言われています。

地域社会の中で、子どもたちを見守る、育てるということが少なくなり、この状況が子育て家庭の地域での孤立につながるなど、様々な問題の要因ともなっていると言えます。地域と家庭、地域と学校とが、互いにつながりを深め、支え合うことが求められています。

本市では、住民自治協議会が本格的に活動して2年目となり、地域と学校との連携事業は、住民自治協議会ごとに行われています。

「地域と学校との連携事業」として学区内の小中学校の校長、教頭、生徒指導の職員を招き、学校の特色ある活動や子ども達の様子について話を聞いたり質問をしたりして、各校の教育への理解を深めています。また、青少年健全育成役員が学校を訪問して校長や学校職員との懇談会を実施したり、学校の協力を得て子どもの作文や標語の発表、ステージ発表を行う少年健全育成関係住民大会を実施しています。さらに、地域住民がボランティアとして学校の教育活動に参画して学校地域支援活動を実施したり、青少年健全育成の役員に学校の職員が所属して常に意思疎通を図っている地域、地域の育成会活動等に学校職員が参加している地域、学校職員と地区の保護者が懇談する地区懇談会を行っている地域もあります。

一方、学校と地域が互いに理解しあう段階にとどまり、目指す子ども像を共有し、互いに協力して地域の子どもを育てていこうという意識がうすい等の課題もあります。

今後は、それぞれの地区で、役員が色々工夫をしながら地域と学校と連携を深め、子ども達の健全育成を一緒に進めるよう努力することが必要です。

地域にとっては、学校は身近な生涯学習施設のひとつです。本市では、昭和50年から学校体育施設の開放をしています。

このように家庭・地域・学校が連携を深め、交流を推進していく必要があります。

具体的な取組

- ・ 学校教育のなかで地域の人材を登用するため、長野市生涯学習リーダーバンクなどの活用を促します。【生涯学習課】
- ・ 家庭・地域・学校がそれぞれの役割を持ちながら連携し、青少年の学習活動を推進していく体制を整備します。【学校教育課、生涯学習課】
- ・ 各住民自治協議会に、指導主事を派遣して、望ましい家庭・地域・学校の連携について懇談したり、役員の研修会で講話をしたり、地区の課題に相談に乗ったりする体制を整えます。【生涯学習課】
- ・ 青少年健全育成に関して各住民自治協議会の実践や課題等について語り合い、抱えている課題等の克服に努めるため、青少年健全育成情報交換会を設けます。【生涯学習課】
- ・ 体育施設をはじめとする学校施設の開放について、市民への周知をするとともに、市民が利用しやすい環境をつくります。【体育課】



青少年健全育成情報交換会

主な取組の目標値

【施策3】 市民と行政で支えあう生涯学習～組織を生かし仕組みをつくる～

指標項目	現状値 (H22)	目標値 (H28)
生涯学習センターの年間利用者数	174,886 人	180,000 人
生涯学習センター平均稼働率	68.1%	70%
放送大学長野ブランチ(センター外視聴施設)利用状況	1,333 人	1,500 人
市立公民館の年間利用者数	1,045,705 人	1,086,000 人
市民一人当たりの市立図書館貸出冊数	4.5 冊	4.7 冊
インターネットによる図書館資料予約件数	41,625 件	52,000 件
市立図書館点字・録音図書貸出数	1,820 点	2,500 点
市立図書館おはなし会参加者数	2,497 人	2,700 人

※ 上記指標項目については、成果（長野市をどんな状態にするのか、市民にどんな影響をもたらすのか等について、施策の到達点を数値で示したもの）を把握できる内容の設定としました。



生涯学習センター交流サロン